

## 兵庫県医師会医療支援チーム（第22陣）「宮城県災害支援現地報告」

神戸市中央区医師会 米田 豊

第22陣の医師は、内科医3名、整形外科医1名で、震災後50日経過し、診療所を受診される患者さんは減少（内科は午前、午後各10人以下）、受診される方は慢性疾患や感冒、胃腸炎、腰痛、関節痛が中心で極めて適切な人選であったと思います。受診者が少ないときは、避難所となっている体育館を巡回し「体調はどうですか？血圧を測りましょうか？」等、積極的に声をかけると、高齢者が多いためか、ほとんどの方が降圧剤や脂質異常症、糖尿病の薬を持っておられました。中にはワーファリンを服用されている方も有りました。

整形外科の中井先生は積極的にブロック注射をされ、喜ばれていました。同じエリア4の新潟県チームから巡回先のグループホームへの整形外科の診察依頼があり急迫往診もされて大活躍されていました。

2泊3日はあっという間で、もう少し働きたいというのが実感でした。

今回の派遣で思ったことは、

- ① 医療はチームとして、医師、看護師、薬剤師と事務方の協力支援があつて初めて成り立つということをあらためて実感することができました。今回は理想的な医療チームでした。
- ② 震災から2ヶ月近く経過し、避難所の診療所を訪れる方の数もかなり減った今、地元医療機関へ患者さんに戻ってもらう時期だと思えます。ただ高齢者も多く、受診アクセスを確保してあげることが絶対に必要です。
- ③ 未だに、被災者は地元医療機関にかかっても自己負担は0ということをご存じない方が多く、手持の現金がないために避難所の診療所を受診したという方がおられました。情報を流しただけでは本当に必要な方には伝わらないということを思い知りました。
- ④ 避難者の数は徐々に減少して来ているようですが、取り残されるのは社会的弱者が多いように思えます。この方々は医療のみならず、早期より福祉、介護の介入が必要と思われれます。
- ⑤ 石巻市民病院の画像データはすべて失われ、カルテも2週間前のものまでしか復元できないということです。私も最近電子カルテにしましたが、データのバックアップは今のままで良いのか極めて不安です。
- ⑥ 県医師会の役員とは十分話し合われているとは思いますが、石巻医師会の先生方の声が我々に聞こえてこなかったのが残念です。

